
恋姫無双 ～救世主を支えた英雄～

ゲスト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋姫無双 ～救世主を支えた英雄～

【Nコード】

N6418J

【作者名】

ゲスト

【あらすじ】

魏に降りた天の御遣い 北郷一刀。

だが彼は、全てが終わると天の世界に還ったと言われていた。だが違った。多くの犠牲者を出した戦いでさえ、序章に過ぎなかった。

新たな戦乱が始まる時、彼は再び蘇る。

グローランサー（救世主）として……

1話 北郷、オーディネルへ（前書き）

はじめまして、ゲストです。

グローランサーも恋姫無双も大好きだから書こうと思ったんですけど・・・

知ってますかね？ グローランサー・・・

えーと、恋姫キャラが出てくるのが遅くなるかもしれない。ごめんなさい。

頑張って書くんでよろしくお願いします。（駄文です）

1話 北郷、オーティネルへ

三国同盟は成った。これから平和が訪れる。
それは人々が望んだもの。

その平和は、一人の男の犠牲により成った。

魏に降りた天の御遣い 北郷一刀。

彼と面識のあった誰もが、彼が還った事を悲しみ、嘆いた。

そして、彼の為の慰霊碑が建てられ、三国同盟の立役者として歴史にその名を残した。

だが、それもまだ、彼を説明するほんの一部に過ぎなかった。

北郷「さよなら、華琳。愛してたよ。」

少しずつ見えなくなる、彼の優しい声。 だが、華琳はそれを見るのが耐えられなかった。だから叫んだ、力の限り。
守れるか分からない約束を。

華琳「いや！ 離れたくない！！ お願い・・・約束して、帰ってくるって・・・」

それは本当に守れるか分からない約束。当然だ。 彼にだって、自分がどうなるか分からないのに・・・

北郷「約束する。 必ず帰ってくる。 だから・・・笑ってくれ。」

華琳はそれに応える。 満面の笑みで彼を見送る。
約束してくれたから・・・帰って来ると。

一刀はまどろむ意識の中、必死に願う。
神様がいるならどうか、約束を守らせてくださいと
何度も何度も……

そして、一刀が目を覚ますと、辺りは真っ暗だった。
夜というわけではない。一刀がいるのは洞窟の中だった。

一刀「ここ……どこだ？」

少なくとも、俺がいた世界ではない。勘でだが、そう思った。
困惑する一刀は、とにかく誰か人を探すことにした。

一刀「おーい！ 誰かいませんかー！！」

返事はない。自力でここから出るしかない……そう思った矢先
誰かの気配がする。それも多くの……

一刀「良かった。人が居る……みた……い……」

だが、彼が見たのは人ではなかった。人の形はしているが、それ
を人と認めることはできなかった。
ところどころ破けた服、腐って異臭を放つ皮膚。眼は無く、ところ
どころに蛆が湧いている。それが、三体。

一刀「う、うわああああああ！！！！」

恐怖のあまり、一刀は出口も分からないまま走った。
走って、走って、走って……走る内に徐々に落ち着いてくる。

一刀（あいつら、足は遅いな・・・このまま逃げ・・・!!）

彼が見たのは壁、行き止まりだった。体に絶望が湧いてくる。

一刀（ごめん、華琳。約束・・・守れそうにない・・・）

追いついてきた化物は、一刀に向かい腕を振りかざす。

一刀は静かに目を閉じた。

ズシャツ 何かが切れたような音。だが、一刀に外傷はない。

一刀は恐る恐る眼をあける。

そこにいたのは・・・赤い服、白い髪、刀にも槍にも似た、武器の下の部分にも刃のある、特殊な武器。そして男は声をかけてくる。

「???」なにもしないで諦めるのは、感心しないな。どこから来た?」

優しい眼をして、手を差し伸べてくれる。

一刀は咄嗟にその手を取り、起き上がり、質問に答えようとする。だが、まだ、生きていた化け物が、赤い服の男に突進してくる。

一刀「あぶな・・・!?!」

一刀が言い終わる前に化物は真つ二つになる。

これだけ近くにいながら、一刀は男の動きを見切れなかった。

一騎当千 一刀の頭にその言葉がよぎった。

化物の死を確認した男がこちらに振り向く。

「???」自己紹介していなかったな。私はアルフォンス・オーデインル。ロイヤルガードにしてオーディネル領主だ。」

安心させるように言う男の言葉は一刀にはわからなかった。

それを不審に思ったのだろう。街へ案内してもらおう傍ら、色々と聞かれた。命の恩人に嘘はつけなかったので、全て隠さず話した。

アルフォンス（略してアル）「別の世界から・・・にわかには信じられないな。」

一刀「でも、本当なんです。証拠もあります！」

アル「落ち着いて。信じないわけじゃない。私の家でもう少し話を聞かせてくれ。」

アルが一刀から視線を外し、前を見る。一刀もつられて前を見ると、洞窟の出口に、外の光が漏れていた。

洞窟を抜けると、そこには立派な石造りの門が悠然と建っていた。

そしてアルは言った。

アル「ようこそ、オーディネルへ。」

一刀はただ、その街をじっと見ることでしかなかった。

2話 一刀の進化(上)

一刀がオーディネルに来て二カ月が経った。アルフォンスに異世界から来た事を納得してもらったのに
時間はかからなかった。

生徒手帳や携帯、それに彼らの知らない知識を言ってみせ、この大陸の地名が全く分からないとなれば、信じてもらうのは簡単だった。

〈回想〉

アル「ふむ……。もしかして君は『ルインチャイルド』じゃないのか？」

一刀「ルイン……。なに？」

アルは真実を見抜くかのように、鋭い目つきで一刀を睨む。その眼のあまりの鋭さに、一刀は動けなくなる。だが、それにアルはすぐに視線を和らげる。

アル「どうやら、本当に嘘は言っていないようだな。」

一刀「いや、だから、そのルインなんたらって何？」

その質問にアルは少し思案顔になる。だがすぐに、

アル「……遠い昔、この大陸の文明は、一度滅んでいるんだ。」

一刀「は？ それがど……。」

アル「その文明の事は、今だに謎が多い。残っているのが、遺跡だけだからな。だが、その遺跡の中に、小さな子供が眠っていることがあるらしい。」

その話に一刀は真剣な顔になる。

一刀「まさか・・・」

アル「勘が良いな。その遺跡に眠っている子が『ルインチャイルド』。古代の文明を解く鍵だ。」

一刀「残念だけど、俺は・・・」

アル「分かってる。目を見ればわかる。君は嘘をついてない。」

輝かんばかりの笑みに、一刀は視線を外す。

アル「さて、これからどうする？ この街にいるなら、色々としてやれるが？」

一刀「俺は・・・」

〈回想終了〉

俺が出した答えは、『この大陸を旅して、元の世界に帰る方法を探したい。』

アルフォンスは、それにも少なからず手を貸してくれるつもりだったらしい。本当にいい奴だ。

まあ、「だった」、だけどね。

「一刀は、何千回目かの素振りを止め、ゆっくりと息を吐く。仕方ないのだ。アルフォンスは、いや、大陸全土がそれどころではなくなった。」

「一刀「戦争……か。」

「そう、戦争が始まったのだ。それも大陸全土を巻き込んで。簡単に説明しよう。」

「元々ヴァルカニアという国の一つだったオーデインル」

「隣国のデュルクハイムと関係悪化。宣戦布

告。」

「戦争のため、同盟国だったマーキュリアから物資を調達（やり方はまるで植民地扱い）」

「失敗」

「ヴァルカニアはマーキュリアにも宣戦布告

「するが、王に却下される」

「自らの信念を貫くため、謀反。オーデインルを独立国として、マーキュリアと同盟を結ぶ。」

「ヴァルカニアと戦争開始」

宣戦布告

デュルクハイムも、マーキュリア・オーディネルに

と、まあ、こんな感じかな？　それで、俺に同行させる兵が出せなくなっただ、ということだ。

一刀「でも、諦めるわけにはいかない。必ず、彼女の、華琳達の所に、帰るまでは……」

まるで言い聞かせるように呟く。　一刀は自分の身は自分で守ると、修行を始めた。

武器の使い方を一から学び、この世界の文字を習った。　一刀は、寝る間も惜しんで、修行に励んだ。

もちろん、勉強や、兵法にもいそしんだ。

結果、この二か月で、一刀は、昔と比べ物にならないくらい成長した。　今では何千回という素振りですら、楽勝にこなし、オーディネルの上級兵を3体相手にしてもまだ余裕があるほどだった。

そろそろ、旅に出ようか。　どこから手をつけようか？　それを真剣に考え始めていた。

そして、旅の始まりは唐突に始まった。

兵「北郷さん！！」

大きく息をしながら、一人の兵が、立っていた。

一刀は彼を知っている。　修業を始めてすぐの頃に仲良くなった。

彼はアルフォンスと共に、最前線にいるはずだったのだが……。

一刀「どうした？　後続部隊に回されたか？」

冗談交じりに聞くと、彼は大声で、真剣に返してきた。

兵「そんな事言ってる場合か!! オーディネル卿が敵の罠にはまって、孤立無援の緊急事態だ。俺は今、片っぱしから使える奴に声を・・・」

一刀「それは本当なのか!? どこだ!! アルフォンスがいる場所は!!!?」

一刀は兵の肩をガクガク揺らしながら聞く。

兵「サンセールの、国境近くで・・・」

なんとか答えた兵を置き去りに、一刀は走り出す。この大陸の地図は頭に入っている。

アルフォンスを救い出すため、一刀は通常では考えられない速さで走り去っていった。

つづく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6418j/>

恋姫無双 ～救世主を支えた英雄～

2010年10月11日12時37分発行